

岩手大学大学院 総合科学研究科 2017年4月新設

2021年までに(第三期中期目標期間に) 岩手大学が目指す大学像

2011年の東日本大震災以降、岩手大学は被災県にある国立大学として地域の復興推進・支援の役割を果たしてきました。

この活動は岩手大学に託された使命(ミッション)として継続していく必要があると考えています。

復興活動は岩手にとどまらず、

日本や世界に共通する課題と認識しているからです。

こうした使命を自覚し、岩手大学は、地域再生の課題解決をはじめ

地域社会の持続的発展のための課題を中心におきつつ

グローバルな視点も含めた教育・研究・社会貢献活動を実施し、

地域に根ざして成果を世界へ発信する大学を目指します。

目指す大学像に向けて

この目指す大学像に向けて、2016年4月には学士課程の全学部を改組・再編しました。

大学院修士課程(博士前期課程含む)は、これまでの学部・研究科の枠を超えた復興活動の実績や、全学部・研究科が1キャンパスに位置する総合大学という本学の特徴を踏まえ、修士課程総体としての人材育成機能の向上・充実を目指し、

2017年4月、岩手大学は大学院修士課程と

博士前期課程の研究科を統合し、

総合科学研究科(修士課程)を設置します。



総合科学研究科

概要

趣旨・必要性

- ▶ 5年間の東日本大震災の復興活動の経験を教育プログラムに反映させ、地域社会の持続的発展のための指導的人材(地域創生を先導する人材)の育成が必要。
- ▶ 社会の急速なグローバル化やイノベーション創出等に対応した人材育成機能の強化が必要。
- ▶ 社会が抱える課題が高度化・複雑化する中で、社会で指導的立場となっていく大学院修士には、専門深化だけではなく、俯瞰的視野が必要。

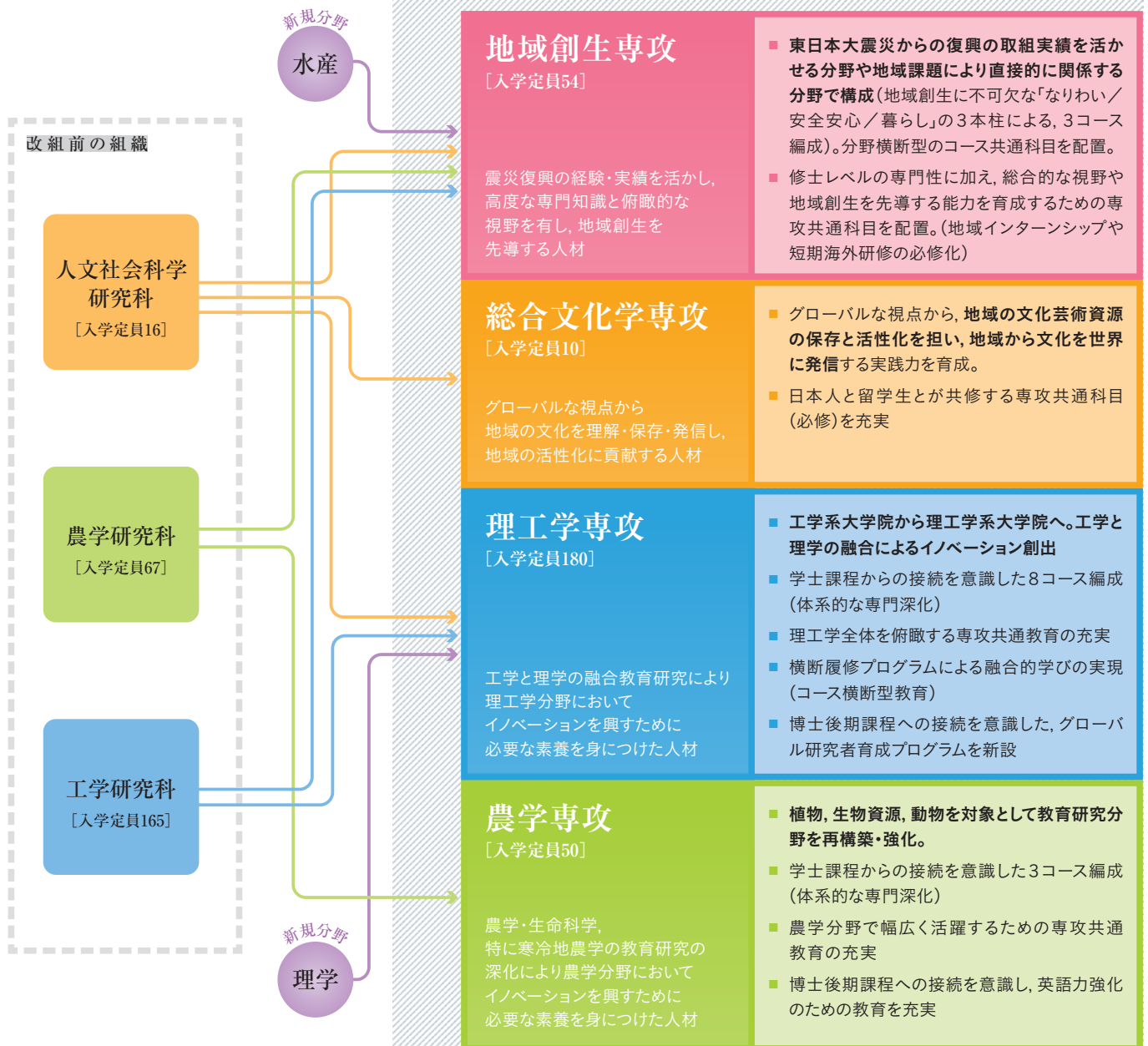
養成する人材像

自然科学, 人文科学, 社会科学等の専門知識に基づきながら, 文理の枠を超えた幅広い視野を持って新たな価値を創造し, 持続可能な社会の実現に向けて地域社会や地球規模の課題解決に貢献する人材を育成する。

岩手大学の特徴

- ▶ 被災地であり課題先進県である岩手に立地する唯一の国立・中規模総合大学
- ▶ 全学部・研究科が1キャンパスに位置
- ▶ 学部・研究科を超えた東日本大震災からの復興支援活動の実績(全教員の半数(200名)が参画)

総合科学研究科 [入学定員294]



「文理の枠を超えた幅広い視野を持って新たな価値を創造する人材の育成」の実現に向け、研究科全体に特色ある教育方法を導入

教育の特色

1

研究科共通科目として、総合科学科目群を開設

総合科学科目	カテゴリ	科目
	震災復興・地域創生	①地域創生特論(全専攻必修) ②地域防災特論 ③地域文化特論
	イノベーション	④システム創成特論 ⑤先端生命科学特論 ⑥物質機能創成特論
	グローバル	⑦多文化共生特論 ⑧グローバルエネルギー特論 ⑨グローバル環境科学特論

総合科学科目の考え方

- ▶ 全学生は、3つのカテゴリ全てから授業科目の履修が必要。
- ▶ すべての科目において、自然科学・人文科学・社会科学の切り口からものごとを捉えるための教育を実施。(各科目の授業内容は、2つ以上の科学分野で構成)
- ▶ 本学が重視する「震災復興・地域創生」のカテゴリについては、「地域創生特論」を必修科目として開講。

授業内容の例

【地域創生特論】

- ▶ 地域の現状と課題と地域創生の理念
- ▶ 地域創生に不可欠な産業振興(農業、畜産業、林業・木材産業、漁業・水産業、ものづくり、地場産業、観光)
- ▶ 地域創生の新たな可能性(地域資源の問い直し、コミュニティ、人材育成、世界への発信)
- ▶ 自治体・企業・NPO等からの外部講師による地域創生への取組
- ▶ 地域創生に関する討論会『地方ならではの「豊かさ」とは』

【グローバル環境科学特論】

- ▶ 自然環境 ▶ 物質の循環 ▶ 自然環境の保護 ▶ 環境政策 ▶ 環境と農林業
- ▶ 環境と水畜産業 ▶ 環境と工業

教育の特色

2

複数の教員による指導体制

- ▶ 全ての専攻において、研究指導は、主任指導教員(専攻内)と副指導教員2名(1名は他分野の教員)による複数指導体制とする。
- ▶ 副指導教員2名は、それぞれ、次のような効果を期待。
 - ・ 副指導教員1名(近い分野)……組織的教育による教育の質保証(学位の質保証)
 - ・ 副指導教員1名(他分野)……幅広い視野の育成、他分野とのコミュニケーション能力、既存の枠を超えた新しい価値

地域創生専攻 概要

趣旨・必要性

- ▶ 平成23年3月11日の東日本大震災以後、全学をあげて被災地の復興支援活動(水産業・ものづくり産業・農林畜産業の復興 地域防災 地域コミュニティ再建 心のケア)を実施。
- ▶ これまでの震災復興への取組実績を活かし、地域創生に繋げるためには、長期的視点に立った地域の活性化を担う人材育成が必要。
- ▶ 地域の活性化には、複雑化する地域の課題に対応しなければならない。自らの専門分野と他分野との連携・協働が必要。
- ▶ 学部教育での基礎の上につつ、専門的な知識と総合的な視野を持ち、「地域創生」を先導する人材の育成が必要。

地域創生専攻(修士課程)の特色等

養成する人材像

総合科学研究科 地域創生専攻 ※分野横断型の新専攻
震災復興の経験・実績を踏まえ、専門的な知識と総合的な視野を有し、地域創生を先導する人材

地域産業コース (なりわい)

地域産業高度化に基づく自律的な地域経済創生の担い手として活躍できる人材の育成

- ▶ 高度農林業 ▶ 水産業革新 ▶ 金型・鋳造 ▶ 地域経済総合

地域・コミュニティデザインコース (安全・安心)

地域・コミュニティ・まちづくりに係る諸問題を総合的に把握・分析し、地域の再生・創生に先導的な役割を果たすことができる人材の育成

- ▶ 地域マネジメント ▶ 防災・まちづくり ▶ 社会基盤・環境工学

人間健康科学コース (人間健康)

地域の社会集団に所属する地域住民の、社会的な側面と個人的な側面を総合的に理解し、地域の活性化に取り組むことのできる人材の育成

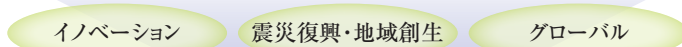
- ▶ 行動科学 ▶ 臨床心理学 ▶ スポーツ健康科学

特色

- **防災・まちづくりプログラムの新設**
東日本大震災の震災復興の取組実績に基づき、分野横断型の「防災・まちづくりプログラム」を新設し、国内外の防災・復興を先導する人材を育成。
- **水産業革新プログラムの新設**
東日本大震災で壊滅的な被害を受けた三陸沿岸の水産業の6次産業化を先導する「水産プロモーター」を育成。
- **心のケアの体制の充実**
東日本大震災で心理的ストレスや心身の健康問題に取り組む体制を充実するため人間健康科学コースを新設。
- **震災復興の取組実績を活かした科目の創設**
震災復興の取組を授業内容とした「地域創生特論」及び被災地等の課題解決に取り組む「コース共通科目」を必修として創設。
- **専門知識と総合的な視野の育成**
各専攻の専門科目で修得する専門知識に加え、研究科共通科目に「震災復興・地域創生」「イノベーション」「グローバル」を自然科学・人文科学・社会科学それぞれの切り口から俯瞰的にものごとを捉える総合科学科目群を新設。異分野を含む複数研究指導体制を構築。



改革の3つの柱



・研究科間の垣根を廃止 ・総合的な視野の育成

総合科学研究科 総合文化学専攻 理工学専攻 農学専攻

地域創生専攻

地域創生に不可欠な3つの観点



取得できる学位

- 修士(農学)
- 修士(水産学)
- 修士(工学)
- 修士(学術)
- 修士(スポーツ健康科学)

総合文化学専攻

概要

趣旨・必要性

- 文化系の教育研究機能強化。
- 震災復興及び地域の発展を実現するためには、グローバルな視野を有し、地域の豊かな文化・芸術を理解・継承・発信することで、地域と世界を結ぶ「地域グローバル人材」の育成が必要。
- 言語・文化・芸術・歴史に関する専門知識とグローバルな視野に基づきながら、地域の文化・芸術の継承と普及、国際交流の推進、多文化共生社会の実現に向けて先導的な役割を担う人材育成を目指す。

総合文化学専攻(修士課程)の特色等

養成する人材像

総合科学研究科 総合文化学専攻

文化・芸術の専門的な知識とグローバルな視野を有し、震災復興と地域社会の活性化に寄与する人材

日本文化理解プログラム

日本語・日本文化を理解し、指導的な立場で世界へ発信できる人材の育成

グローバル文化発信プログラム

外国語能力を高め、欧米の文化を多角的・総合的に理解できる人材の育成

アート発信プログラム

地域に根ざした芸術をグローバルに発信でき、地域世界を架け橋となる芸術の担い手を育成

地域文化リノベーションプログラム

日本と世界の歴史を深く理解し、地域の文化遺産と保存の意義を知って、地域文化の活性化を担う人材の育成

文化多様性理解プログラム

文化間のコミュニケーションや共生、文化の保存や発展などに関し、社会の様々な事業体において積極的な活動や提言ができる人材の育成

特色

■ 5つの教育プログラム

プログラムごとに専門知識の深化と総合化を図り、教育資源の有効活用と、社会のニーズの変化に柔軟に対応したカリキュラムを提供。

■ 地域グローバル人材育成科目の充実

「総合文化学基礎」「岩手文化理解論」「岩手文化発信論」「文化マネジメント論」の4つの科目を必修とし、地域グローバル人材育成に必要な能力と技能のための基礎力及び実践力を育成。

■ 海外研修の充実

全てのプログラムに「グローバル課題解決型研修」を配置し、英語圏、ドイツ語圏、フランス語圏、中国語圏で課題解決型の海外研修を実施。

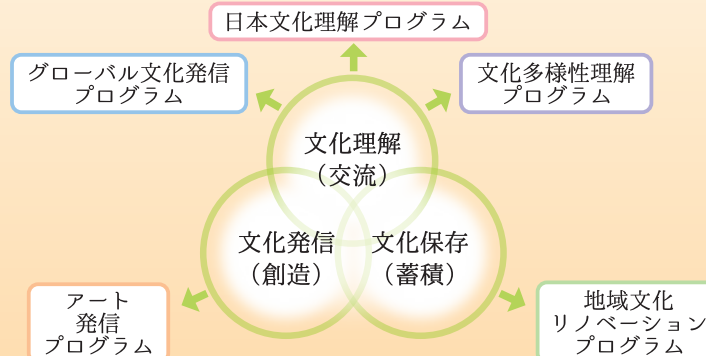
取得できる学位

- 修士(学術)

「新しい東北」の創生に向け、文化を世界に発信

総合文化学専攻

- ・地域と世界を結び、地域社会のグローバル化に対応。
- ・地域社会の文化的再生・活性化のニーズに実践的に貢献。



理工学専攻 概要

趣旨・必要性

- ▶ 産業構造のグローバル化、国際競争激化、学問領域の深化拡大に対応する大学院教育の早期実現の必要性
- ▶ 地域産業界、自治体など利害関係者からの要望（国際競争力のある理工系人材育成や新産業・雇用創成等）への迅速な対応の必要性
- ▶ 工学と理学の「進化・深化」と、「連携・協働・融合」による新たな学問領域構築・イノベーション創出、及び国際競争力のある次世代科学技術の継続的創成拠点の形成への期待
- ▶ 質保証された体系的専門教育、及び大学院レベルの理工系リテラシー教育から成る理工学系創造的教育プログラムの実現の必要性

理工学専攻（修士課程）の特色等

養成する人材像

自然科学の基礎とその科学技術への応用についての広範かつ高度な知識、経験と倫理観を有し、イノベーションの原動力となる新原理、新材料などの創成を担う**理工学分野の専門人材**

最新の科学技術の方法論を基礎として、システムを構成する要素特性の解明、新機能開発とともに、全体システムへの統合と制御を可能にする手法の開発を通じて、次世代の科学技術の創出を担う**工学分野の専門人材**

人の豊かさに対する社会的ニーズに応えるべく、人に優しい環境と文化的な生活空間の構築に貢献するため、デザイン、環境工学、メディア工学を融合した**芸術工学分野の専門人材**

取得できる学位

- 修士(理工学) ■ 修士(工学) ■ 修士(芸術工学)

特色

- 理工学全体を俯瞰する**専攻共通教育の充実**(ソフトパス理工学特論の必修化など)
- **横断履修プログラムによる融合的学びの実現**(例示:ロボティクス分野、金属生産プロセス工学分野など)
- **グローバル研究者育成プログラムによる高度研究人材の育成**(グローバルキャリアデザインの必修化)
- ディプロマ・ポリシーにより、履修科目と修士論文の内容を判断し、**理工学専攻として3つの学位(理工学、工学、芸術工学)のいずれかを授与**(「学位点検委員会」による学位の質保証)
- **主任指導教員・副指導教員による組織的教育の導入**(副指導教員2名を置く複数指導体制や修士論文中間発表を含む多面的指導体制)
- ミッション再定義で明確化した「金属生産・表面界面工学」などの**特徴ある教育研究分野の強化**によるイノベーションの創出

理工学専攻

物質化学	コース	【35】	グローバル研究者育成プログラム 横断履修プログラム 専攻共通教育
生命科学	コース	【15】	
数理・物理	コース	【15】	
材料科学	コース	【20】	
電気電子通信	コース	【30】	
機械・航空宇宙	コース	【35】	
知能情報	コース	【18】	
デザイン・メディア工学	コース	【12】	

全学的資源再配分

【学内資源の再配分】

- ▶ 本学の機能強化を推進するため、全学から理工系教員を理工学専攻に結集
- ▶ 学生定員の見直し(従来の工学研究科博士前期課程165名を総合科学研究科理工学専攻180名に拡充)

農学専攻

概要

趣旨・必要性

- 農学分野における急速なグローバル化に伴う課題及び東日本大震災からの復旧・復興のための応用技術、東北地方の豊かな地域資源の活用などのローカルな課題の解決に貢献できる人材を養成する。
- 農学・生命科学、特に寒冷地農学の教育・研究を深化させ、得られた成果を国の内外に広く発信する。

農学専攻(修士課程)の特色等

養成する人材像

総合科学研究科 農学専攻

農学・生命科学、特に寒冷地農学の教育研究の深化により農学分野においてイノベーションを興すために必要な素養を身につけた高度専門職業人や研究者を同時に養成する。

植物生命科学コース

植物生命科学分野の科学技術の急速な進歩・深化やグローバル化しつつある農業情勢に臨機応変に対応できる人材

応用生物化学コース

社会における多様化した問題や三陸復興に対して、生物と化学、さらに、食料・食品・医薬品・化学資材に関連する知見と技術をもって対応できる人材

動物科学コース

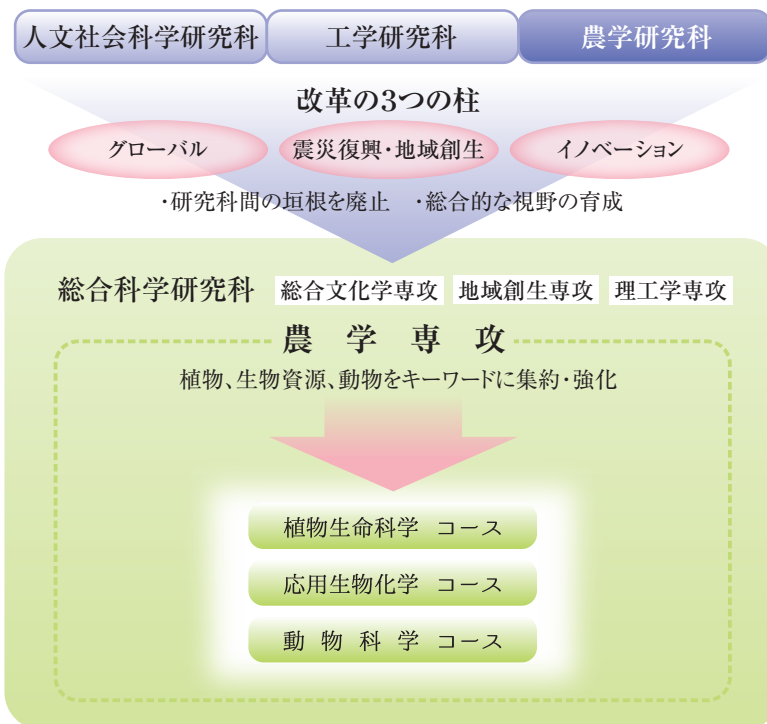
動物の生産振興、人の健康増進、動物遺伝資源の保護、動物生産物の有効利用などに対して高度に貢献できる人材

特色

- 植物、生物資源、動物をキーワードとし、生物学的、化学的手法に基づき教育研究分野をそれぞれ植物生命科学コース、応用生物化学コース、動物科学コースに集約して強化する。これにより平成28年度改組の農学部と一貫性ある教育プログラムを実施できる。
- 専攻共通科目の「次世代農学特論」を必修で新設する。「次世代農学特論」では農学の先端的理論や技術に関する授業のみならず、農業経済、農業経営の視点からの授業も行い、農学分野で広く活躍するための能力を養成する。
- アカデミック英語を必修化して英語教育を強化する。これにより、国の内外の研究者との交流・連携強化を目指す。
- いずれのコースも学生の自主性によって将来、高度専門職業人をめざす高度専門教育重点科目群か研究者をめざす研究教育重点科目群を選択できる。

取得できる学位

- 修士(農学)





岩手大学釜石サテライト

〒026-0001 岩手県釜石市平田第3地割75-1

TEL.0193-55-5691

URL <http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/kamaishi/>



国立大学法人 岩手大学

〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目18番8号

TEL.019-621-6006 FAX.019-621-6014

URL <http://www.iwate-u.ac.jp/>



この冊子はグリーン購入法に
基づく基本方針の判断基準を
満たす用紙を使用しています。

